

4. A地点（松川の下流部）の川原の植物

図2のA地点は、四号国道松川橋の西約300mのところである。写真2がその全景で、その川原の断面と主な植物の植生のようすをスケッチしたのが図3である。さらに、汀線から堤防域まで線状測定をして、植物がどのように分布しているかをまとめたのが図4である。

写真2 A地点（松川の下流部）の全景

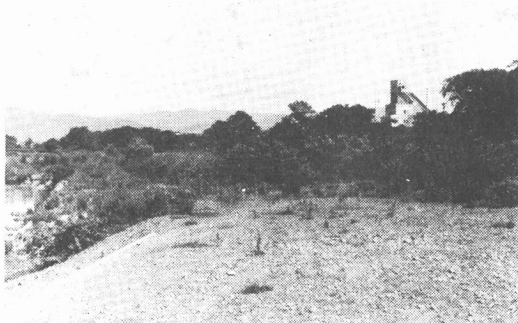


図3 A地点の川原の断面と植生のようす

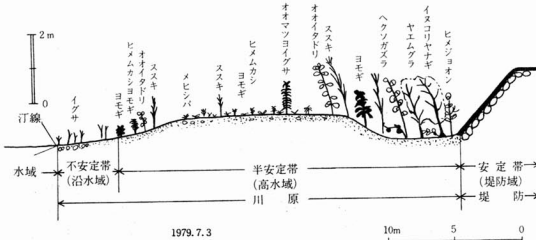
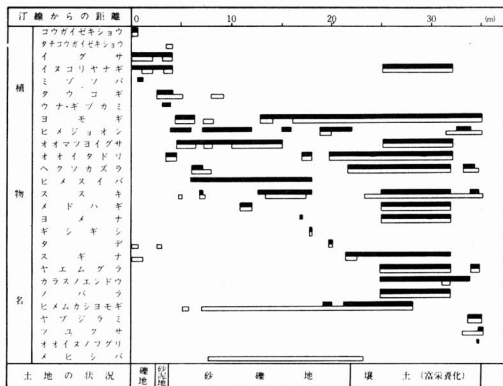


図4 A地点の線状測定の結果



※ 1979. 5. 29 調査
 1979. 7. 3 〃

汀線から4mまでの不安定帯の礫地・砂泥地にはコウガイゼキショウ、イグサ、ミゾソバ、ウナギヅカミ、タウコギ、イヌコリヤナギなど草丈の小さい

植物が疎生している。つぎに、4~21mまでの半安定帯の砂礫地には、ヨモギ、ヒメジョオン、ヒメスイバ、オオマツヨイグサ、ススキ、ヒメムカシヨモギ、メヒシバ、

写真3 イヌコリヤナギ群落



などの植物が見られ、土地が乾燥していて草丈が低い。ここでは、5月の調査

で見られたヒメスイバ、ヒメジョオンが姿を消し、代わってメヒシバ、ヒメムカシヨモギの芽生えが数多く見られた。これは乾燥が続いた後、梅雨の降雨のため一斉に発芽したものと思われる。さらに、21~30mまでの半安定帯でも富栄養化した壤土には、写真3のように、イヌコリヤナギ、オオイトドリ、ススキなどが草丈2m以上になって繁茂しており、その下床にヨモギ、ヤエムグラ、ヘクソカズラ、カラスノエンドウなど密生している。

5. B地点（松川の中流部）の川原の植物

B地点は、福島刑務所通り新松川橋の西約800mのところである。その川原の断面と主な植物の植生のようすをスケッチしたのが図5である。さらに、線状測定の結果をまとめたのが図6である。

図5 B地点の川原の断面と植生のようす

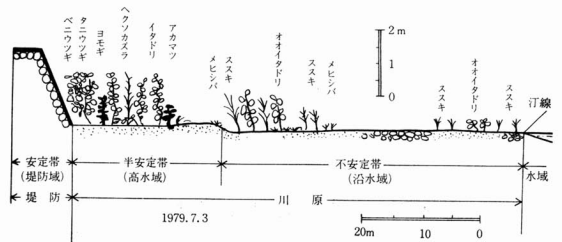
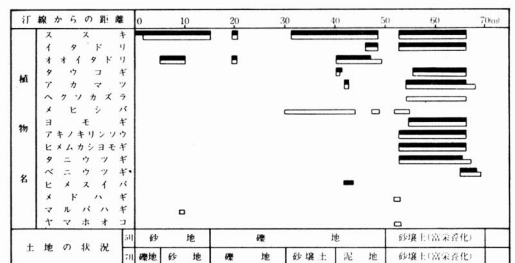


図6 B地点の線状測定の結果



土地の状況	汀線	砂地	礫地	砂壤土	泥地	砂壤土(富栄養化)
	堤防	砂地	礫地	砂壤土	泥地	砂壤土(富栄養化)